

技術・家庭科（家庭分野）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055814

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



技術・家庭科（家庭分野）

橋本 正恵

共同研究者 綿引 伴子（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

（1）本校の研究との関連

本校では、平成26年からの3年間ESDに関する教育研究に取り組んだ。ESDに関しては、多くの学校がその実践や研究に臨んでいるが、本校の取り組みの特色は各教科の学習において主に取り組むということである。総合的な学習の時間などで扱われることの多いESDに、各教科等がそれぞれの学習内容の中で取り組むことを中心として全教科等で取り組んだ。更に、全教科等の学習で取り組むことに加え、それらを教科等横断的に連携させてカリキュラムマネジメントを行ったことも本校の研究の特色であると言える。教科等を横断した学習や複数の教科で連携した学習を構築する時、技術・家庭科の役割の特性は、生徒の生活と様々な教科等で学習した内容を結びつけることができることにある。資質・能力の育成に関わって、学んだことを社会で生かす能力の必要性が重視されて久しいが、技術・家庭科はその学習内容そのものが、一人一人の生徒の生活に即したものであるから、その特性をより生かして他教科の学習内容と各生徒の生活の橋渡しとなることができる。

技術・家庭科の各学習内容は、生徒の生活そのものを扱う学習であり、各教科等で学習した内容が現在や将来の生活とどのように関わって行くかを示す手段となる。そのような教科の特性を生かして、技術・家庭科の学習では常に個々の生徒の生活の中にある課題や疑問を見取り、その解決に向けて思考をすることをねらった題材計画を工夫していくことを重視している。

以上のような本校の研究の方法や体制と教科の特性を踏まえて、家庭分野の学習は以下の二点を目指したい。

- ①教科等の連携を取り持つ学習となることを目指す。
- ②教科等で学んだことと生徒の生活とを結ぶ役割を担う。

（2）新学習指導要領に向けて

これまでも、家庭分野の学習では衣食住に関する学習において、和食や和服、和の住まいなどについて扱ってきており、伝統文化教育に関しての実践は以前より取り組まれてきた。

新学習指導要領では、技術・家庭科（家庭分野）の目標について、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」としている。またその解説には「生活の営みに係る見方・考え方を働かせとは、家庭分野が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫することを示したものである。」とある。家庭分野の学習内容全体に共通する視点の一つとして「生活文化の継承・創造」があげられており、家庭分野の学習と伝統文化教育の関連の深さが分かる。取り扱う題材構成によってどの視点を重視するかを定めることが必要ではあるものの、家庭分野の学習全般にわたって、これまで受け継がれてきた生活文化を

創造し伝えることを意識することが必要であると思われる。

以上のような新学習指導要領の内容を踏まえて、家庭分野の学習では以下の二点を意識している。

- ・家庭分野の全ての学習において、生活文化の継承・創造の視点を意識する。
- ・特に衣食住に関わる題材において、これまで継承されてきた生活文化と自分の生活との関連に気づき、よりよい生活について考えようとする態度の育成を目指す。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

前述の通り、家庭科の学習の目標は、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること」である。伝統文化教育に取り組むにあたっては、まずは衣食住に係る生活事象を、生活文化の継承・創造の視点で捉えることを基盤にして、学習を構成した。また「協力・協働」の視点で生活事象を捉えることも教科としての目標であり、昨年度、学校全体で育成を目指していた「グローバル人材の要素 i～iii」について、家庭科の学習との関連は以下のように捉え、実践を行っていた。

要素 i : 語学力・コミュニケーション力 → 協力・協働の視点で学習内容を捉える。

要素 ii : 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

→日本の生活文化を継承する視点で学習内容を捉える。

要素 iii : 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

→日本の生活文化を継承する視点で学習内容を捉える。

これを踏まえて、今年度は学校全体で育成する資質・能力①～③との家庭科の学習との関連を以下のように捉えて実践を計画している。

①日本の伝統や文化に関する理解 →日本の生活文化を継承する視点で学習内容を捉える。

②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度

→ 協力・協働の視点で学習内容を捉える。

③文化の伝承・創造への主体性など →日本の生活文化を継承・創造する視点で学習内容を捉える。

一年生5月に行った食事の役割に関する学習（実践事例 p 115）では、6つの食事の役割についての理解をした後、日本での食事のマナーについて生徒自身の生活を踏まえて考えた。学習のまとめの部分では、それぞれの生徒が、受け継がれてきた文化を踏まえて、自分自身の生活をどのように工夫したらよいのか、ということ考えた。①日本の伝統や文化に関する理解を踏まえて、③文化の伝承・創造への主体性などの育成をねらった授業である。

(2) 関連・連携を図った教科等について

家庭科の学習は一人一人の生徒の生活を中心としたものであり、他教科等の学習と生徒の生活とを結びつけることができることが、教科の特性であると考えている。ESD研究の実践を踏まえ、学校での学習を生活で生かすために、より多くの教科等をつなぐ役割を担いたいと考えている。

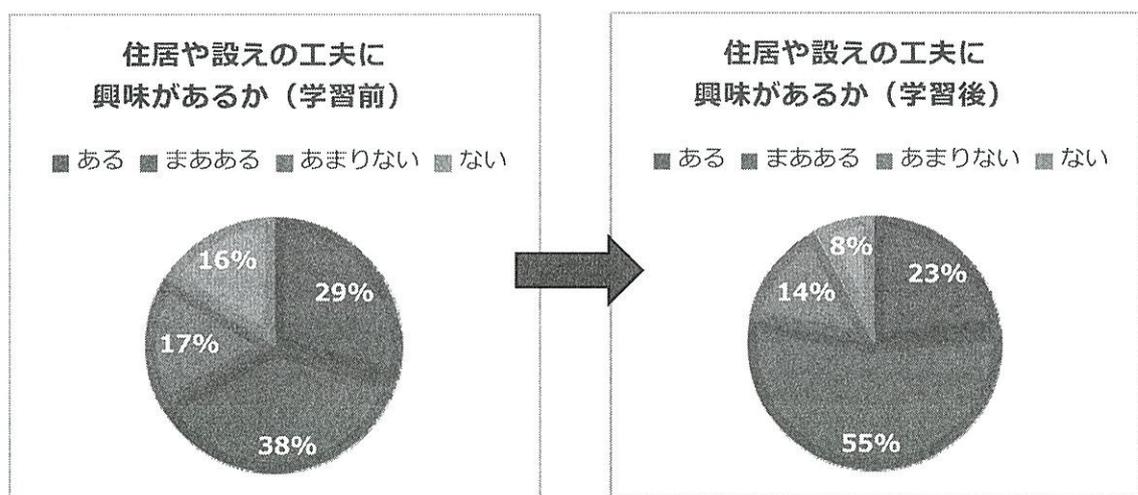
前述の実践（実践事例 p 115）では、社会・英語の学習と関連を図りたいと考えた。社会の地理分野の学習では、地域ごとの食文化について学習をしている。今回の実践では、家庭科では、特に日本の食文化に関する学習を重点的に行い、異文化に関する理解は、社会の学習で習得されることを期待した。昨年度の同様の授業では、異文化との比較に関する内容も含めて学習を行ったが、今年度は、技術・家庭科（家庭分野）で重点的に扱う内容により重点を置いた実践とした。このように、他教科等と連携することで、技術・家庭科（家庭分野）で扱うべき内容の精選をすることができ、さらなる連携をすすめることで、学習計画の改善につなげることができると考えている。

3. 成果と課題

今年度の実践について、先述の「1. 伝統文化教育を進めるに当たって」の「(1) 本校の研究との関連」で挙げた2つの目指すところに沿って、今年度の実践を振り返る。

①教科等の連携を取り持つ学習となることを目指す。

各教科等が伝統文化に関わって計画する実践に関して、その都度、家庭分野の授業での連携の可能性を考えた。昨年度の実践と同様に、英語や社会などの教科とは連携した授業を構築することができた。また、それ以外にも家庭分野の授業について検討をする時には、常に他教科等との関連がないか、連携の可能性はないか等、常に意識をして題材を計画することができた。昨年度の課題として、複数の教科等を結びつける要となることに関しては、積極的な取り組みができなかったということがあったが、今年度は、複数の教科が連携して一つの題材の学習に当たる教材の開発を試みた。実践事例（p 118）は、三年生の国語と理科、家庭分野が連携して開発した題材である。「日本人の暮らしと自然の関り」をテーマとして学習を構築した。家庭分野では、これまでの住生活の学習の中の伝統的な日本の住居に関する学習に関して、国語・理科と連携して取り組むことで、生徒の興味・関心が高まる結果が得られた。



他教科と連携することで、教科の学習に関する興味・関心が高まったり、理解が深まったりしたと思われる例。

洋室と和室の違いを学んで、工本が本にナリト、ワリナリが存在
するの事。国語の短歌や俳句を学んで。

古典(短歌)にでてきたものと和室とのイメージが美しく脳内で
合致したときものむ鳥肌がたつた。(思い出で)

家庭科では「和室と自然のつながり」について学び、
和室にあまり好印象がなかったが、和室の魅力を感ずるよう
になった。

②教科等で学んだことと生徒の生活とを結ぶ役割を担う。

授業で伝統文化を扱うに当たって、各学習の導入部分では常に一人一人の生徒の経験や生活を踏まえることを大切にしている。それぞれの生徒は、各自が異なった生活文化を持っているが、その中に潜んでいる日本の伝統文化に改めて目を向けることから始め、教科の学習を経た後にその知識や技能を生活の中で活用できる仕組みを意識して学習計画を行っている。昨年度は、各生徒の生活の中の伝統文化に目を向けることに関しては、多くの生徒が達成できていた。このことは、「学校全体で育成する資質・能力の①日本の伝統や文化に関する理解」の育成につながっている。一方、将来の生活も視野に入れ、どのように伝統文化と関わっていくかについてや、伝統文化を継承・発展させていく担い手として、どのように生活を創造するのか、といったことについて考えることが課題として残った。今年度は、この点について、特に意識をして題材の開発に当たった。「学校全体で育成する資質・能力③文化の伝承・創造への主体性など」の育成を特にねらって、学習を構成した。文化を継承していく主体性が育まれた様子が生徒アンケートの記述などから読み取ることができた。

学校全体で育成する資質・能力③文化の伝承・創造への主体性などの変容が見られた記述の例

家庭の和式の整理と、国語での古典と風土の結びの授業を受けて、
自然と知った自身に関する考えが深まった。

日本は昔から月や星などの夜空と自然が好まれている。それに工夫して、
和室にはおさんぽいをして、景色を見えるようにしてつとせとか。
自然と月・星に関するうたや書物の子の助けを。.
日本のこのおら自然と愛する気持ちで生きていこうと思う。

今年度は、より多くの教科と連携した学習の実践を持つことができた。さらに三年間の学習計画について、精選をし、より効果的な学習計画の作成に当たりたい。

授業者 橋本 正恵		授業日 11 月 8 日(木)
授業クラス	1 年 1 ~ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 体育・音楽
授業内容		
<p>○不要な衣服を利用して、裂き織の布を製作する。</p> <p>○「こきりこ」の踊りに活用できる作品を考える。</p>		
教科等で身に付けたい力（本時について）		育成したい資質・能力
<p>知識：布の組織（平織・綾織・編物・不織布）について理解する。</p> <p>関心：資源や環境に配慮した製作について、関心を持つ。</p>		<p>①日本の伝統や文化に関する理解</p> <p>③文化の伝承・創造への主体性など</p>
授業のポイント・流れ		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>題材計画</p> <p>（全 8 時間 本時 2 時間目）</p> <p><衣服の選択と手入れ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 繊維の観察 2. 糸・布の観察 3～4. 本時 <li style="padding-left: 20px;">裂き織で、織りにトライ 3. 布や衣服の文化 4. 作品の活用 5. 繊維・布の性質 6. 衣服と環境のつながり 7. 衣服と社会のつながり </div>		<p>1 織物と編物の組織について、確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1：持ち寄った布（不要な衣服等）で、織りにトライすることを確認する。 2：体育の授業の「こきりこ」の小物として、活用するための製作の計画を立てる。 3：厚紙とタコ糸を使い、織物を作る方法を理解する。 <li style="padding-left: 20px;">「南部裂き織（青森）」に関する動画をタブレットで視聴。 4：持ち寄った布を裂いて、糸玉を作る。 5：「こきりこ節」や「踊り」について、語らいながら、イメージを広げつつ、作業を行う。 <p>・日本では、布をはじめとした「もの」を大切にしてきた「生活の工夫」について、理解を深める。</p> <p>・自分たちの生活にどのように取り入れられるかを考え、実践につなげる。</p>



実践事例

家庭2年

授業者 橋本 正恵	授業日 1 月 10 日(木)	
授業クラス	2 年 1 ~ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 社会・数学
授業内容 ○日本の伝統的な行事食であるお雑煮について理解する。 ○自分たちがお雑煮（和食）をどのように継承していくのかについて考える。		
教科等で身に付けたい力（本時について） 知識：様々な行事食について、地域や家庭によって、工夫があることを知る。 工夫：行事食について、自分の生活にどのように取り入れていくのかを考える。	育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など	
授業のポイント・流れ		
題材計画（冬休み課題＋1時間） <わが家のお雑煮> 1：「わが家のお雑煮」レポート 正月の「お雑煮」について調べてレポートを作成する。 ・よく食べるもの ・由来 ・食べない理由 など 2：データにまとめよう 各自が調べたお雑煮について、全体でデータをまとめる ・餅の形・加熱方法・具材 今後、どのような雑煮を継承していきたいか。または、していきたくないか。	5人グループ×8 で活動。 1：作成した「わが家のお雑煮レポート」をもとに、相違点を話し合う。 2：全体でまとめたい項目をあげる。 餅の形・加熱方法・だしの材料・具材・調味料・由来 など 3：違いはどのようなことから生じるのか考える。 社会の学習（地域の特色）が関連しているよ！ 4：今後、自分自身はどのようにお雑煮を継承していきたいのか、またはしていかないのかについて、考えを持ち、共有する。	

実践事例

家庭3年

授業者 橋本 正恵		授業日 10 月 29 日(月)
授業クラス	3 年 1 ~ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 国語・理科
授業内容		
<p>○住まいの基本的な機能を理解する。</p> <p>○和の住まいについて、理解する。</p>		
教科等で身に付けたい力（本時について）		育成したい資質・能力
<p>知識：住まいの働きには、精神的な働きと機能的な働きがあることを知る。</p> <p>関心：自分や家族の住空間と生活行為とのかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。</p>		<p>①日本の伝統や文化に関する理解</p> <p>③文化の伝承・創造への主体性など</p> <p>（次時で中心により組む）</p>
授業のポイント・流れ		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>題材計画（全2時間）</p> <p><住まいの工夫></p> <p>1：和の住まいを知ろう（本時）</p> <p>和の住まいの長所・短所について理解する。</p> <p>（機能的な面・精神的な面）</p> <p>2：季節の設えを取り入れよう</p> <p>季節や行事の設えの取り入れ方を考える。</p> </div>		<p>5人グループ×8で活動。</p> <p>1 これまでの学習「和食」「和服」を振り返る。</p> <p>思い浮かぶキーワードを10ずつあげる。1共有</p> <p>2 「和の住まい」と聞いて、思い浮かぶワード10をあげる。例：畳・障子・縁側・床の間・寛ぐ・正座 1共有</p> <p>3 和の住まい（和室）の例を提示する。</p> <p>4 和の住まい（和室）の長所・短所を考える。</p> <p>5 「和の趣」・「和の設え」には、「四季」や「自然」との関りが欠かせないことを知る・</p> <p>7 身の回りにある「季節（行事）の設え」を探してくる。</p> <p>日本人が行ってきた住まいの工夫には、自然や四季との関りが重要であったことを理解する。</p> <p>1 理科・国語の学習とのつながり</p> <p>自分の生活をどのように工夫するのかを考える。</p> <p>1次時へ</p>
